

# 編集 後記

● 会津若松医師会の前田修司先生から頂いた今月号の表紙の写真は、春待つ頃の北塩原村雄国沼の銀世界。今頃この辺りでは、どんな初夏の薫りが漂っているのでしょうか。

● 原 寿夫先生による「視点」では、介護サービスにおける客観的評価の取り組みについて解説して頂きました。認知症の評価は特に困難な作業ですが、高齢化の進む中でよりよい介護システムを達成できるよう、県医師会会員皆様のご協力をお願い致します。

● 広報委員の大根田 実先生による医療情勢のポイント。COVID-19に関する新情報が数多繰り出されるなか、働き方改革は開業・勤務医あるいは医療従事者全てに関わる喫緊の課題です。されど時はコロナ禍、泥に足を取られながら進むかのような重い問題です。

● 東日本大震災後10年特集として企画された特別寄稿。今月号では、JMATの生みの親であるいわき市医師会石井正三先生からJMAT設立とその活躍についてご紹介頂きました。世界医師会副議長を経験なさった高い視点からのこの壮大なプロジェクトは、石井先生がいなければ実現されませんでした。

そしてJMATはその時福島県民の危機を確実に救ったのです。

● 福島市医師会の持田裕史先生から戴いた随筆「家系図」は、ご自身のお名前に纏わるミステリーが残されたままで「一旦」終わっていますが、是非続編を期待しております。

郡山医師会の柿沼雄二先生から戴いた「食事と文化と」。知の泉のようなお話にいつものながら吸い込まれました。愉しき宴席、今何処。あ～、飲みに行きたい。そして熱く語り合いたい！

同じく郡山医師会の三浦則正先生の「賞味期限切れ男の花道 一いざ自律生活へー」は、今後の自分も同じ境遇となったらと、身につまされる思いで天を仰ぎ暫し沈黙。

会津若松医師会の米山高仁先生からは、「三度目の正直」と題したワインとブランデーのお話。いやあまったく、羨ましいひと時でしたね、米山センセ！

● 伊達医師会志賀<sup>ゆたか</sup>隆先生による地域医師会活動報告は、極めて具体的で反芻すべき示唆に富んだ内容でした。短いながら本医師会の極めて貴重な記録として、記憶に刻んでおくべきでしょう。

● 広報委員会のつぶやきコーナーでは、今野 明先生の大きな眼による世相観察が光っています。今野先生、これはつぶやきではなく、陣頭指揮に立つ方のメッセージと拝読致しましたぜ。

黒田 直人 (医科大学医師会)

広報委員	渡部 康	木村 守和	黒田 直人	尾形 眞光
	長谷川 隆哉	横村 伸夫	前田 耕志	今野 明
	大根田 実			

福島県医師会報 第83巻 第6号 (毎月1回発行)

発行者 佐藤 武寿

発行所 一般社団法人福島県医師会 TEL (024)522-5191

〒960-8575 福島市新町4-22 FAX (024)521-3156

http://www.fukushima.med.or.jp

印刷所 陽光社印刷株式会社

☆本誌掲載記事の無断転載を禁じます。